

最新の3か月予報 (6月~8月)

関東甲信地方
北陸地方 (新潟県を含む)
東海地方 (静岡県を含む)



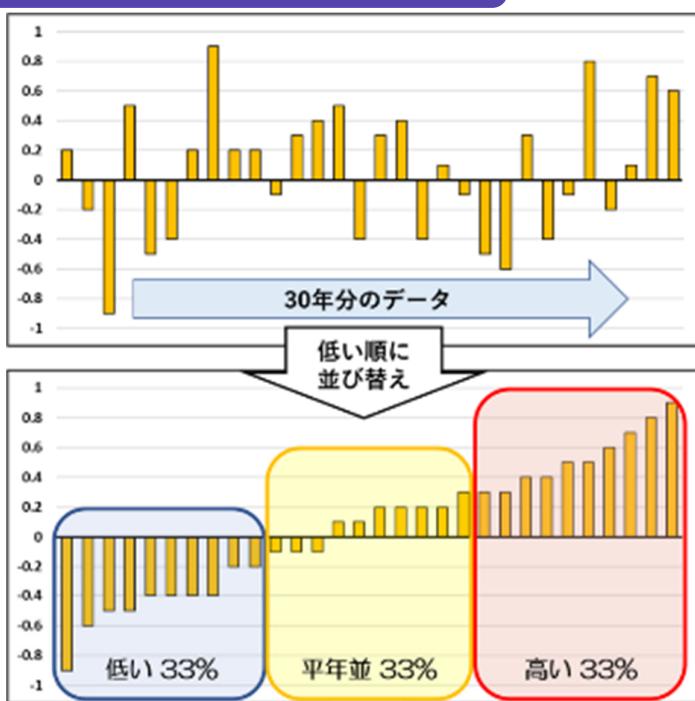
東京管区気象台
気候変動・海洋情報調整官

吉村 純



季節予報の基礎知識① 「平年並」とは？

平年並の範囲の求め方



過去30年：1991～2020年

- ①気温平年差を低い順に並び替える
- ②低い方の10年の範囲を「低い」
真ん中の10年の範囲を「平年並」
高い方の10年の範囲を「高い」とする

「平年並」って、
30年間に起こった現象の中で
真ん中の10年の範囲のことだったんだ！



この例では「平年並」の範囲は $-0.1^{\circ}\text{C} \sim +0.3^{\circ}\text{C}$

季節予報の基礎知識② 確率を予報します

降水確率予報の例



「降水確率60%」という予報を100回発表すると、約60回で1mm以上の降水がある

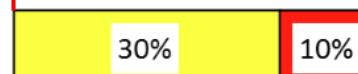
「降水確率60%」という予報を100回発表すると、約40回で1mm以上の降水がない

季節予報の例



「低い確率60%」という予報を100回発表すると、約60回で平年に比べて気温が低くなる

「低い確率60%」という予報を100回発表すると、約40回で平年に比べて気温が低くならない



平年に比べて気温が低くならない約40回のうち、約30回で平年並の気温となる

平年に比べて気温が低くならない約40回のうち、約10回で平年に比べて気温が高くなる

3

3か月予報（5月21日発表）

<https://www.jma.go.jp/bosai/season/#term=3month>

※ウェブページ画面上部のボタンより
各都道府県が属する地方を選択できます。



次回

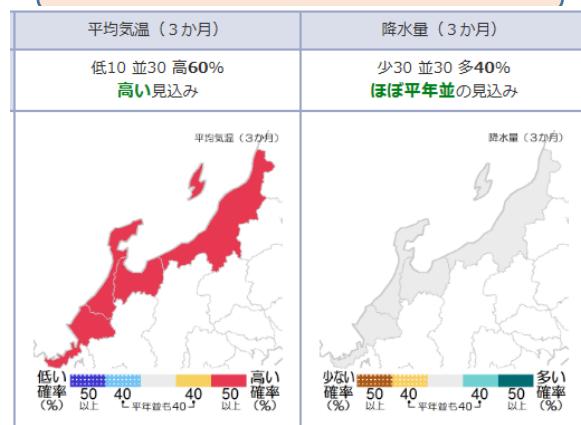
6月25日(火) 14時 発表

6~8月の天候の見通し（平均気温、降水量）

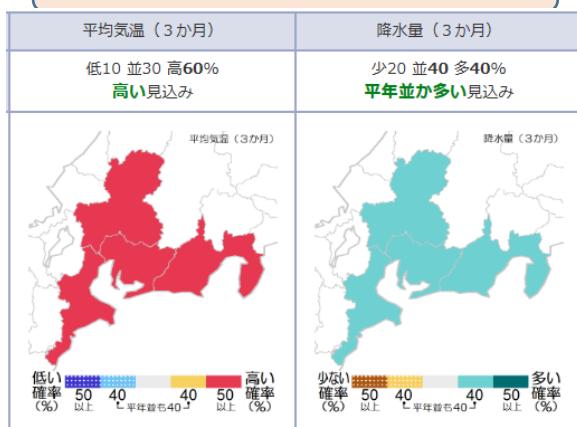
予報のポイント（抜粋） (全国)

暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は全国的に高いでしょう。

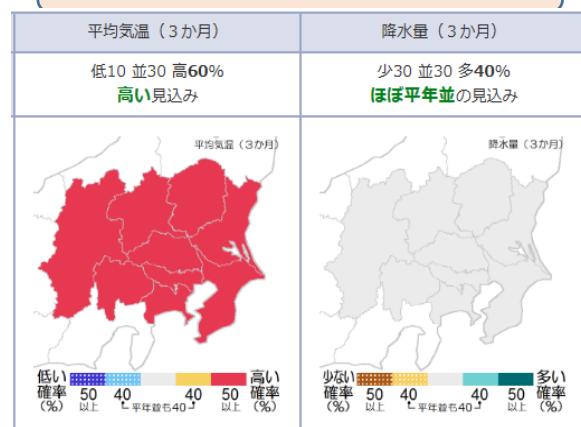
北陸地方



東海地方



関東甲信地方



7月・8月の天候の見通し

関東甲信地方

07月	・期間の前半は、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
08月	・平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

北陸地方

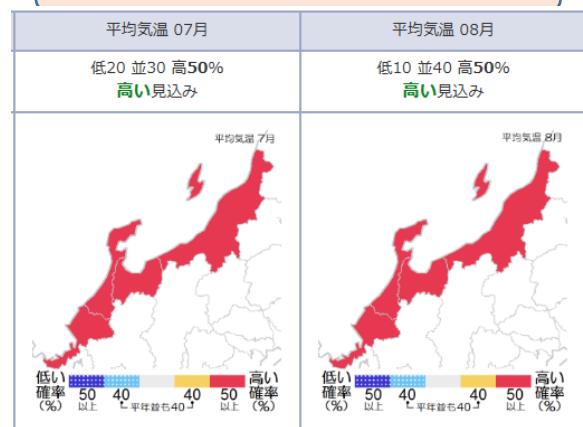
07月	・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
08月	・平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東海地方

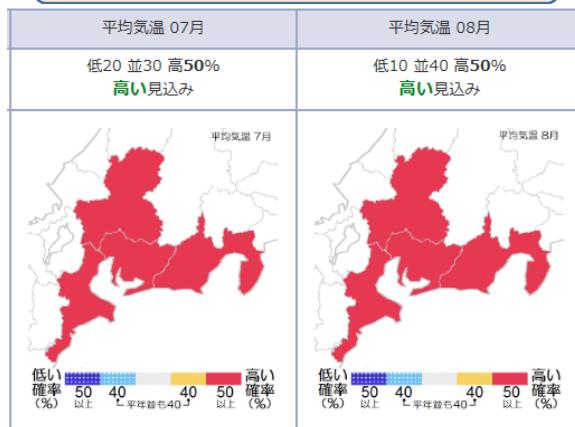
07月	・期間の前半は、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
08月	・平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

7月・8月の平均気温

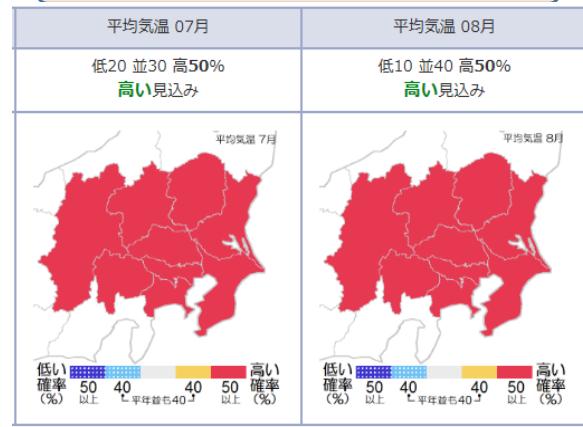
北陸地方



東海地方

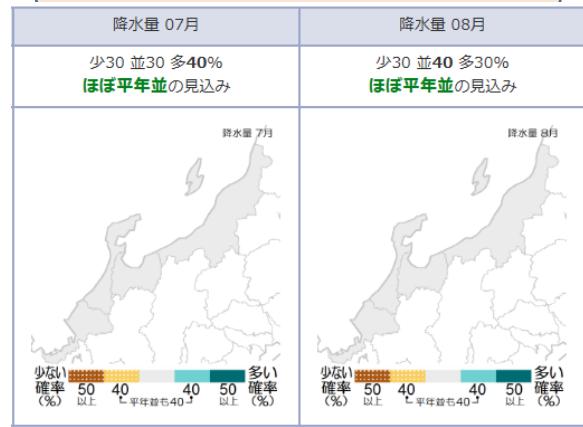


関東甲信地方

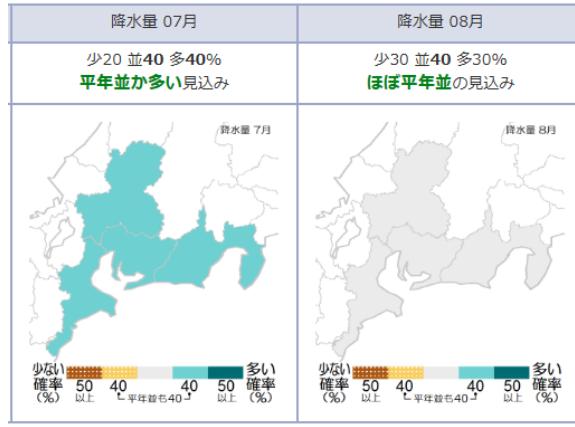


7月・8月の降水量

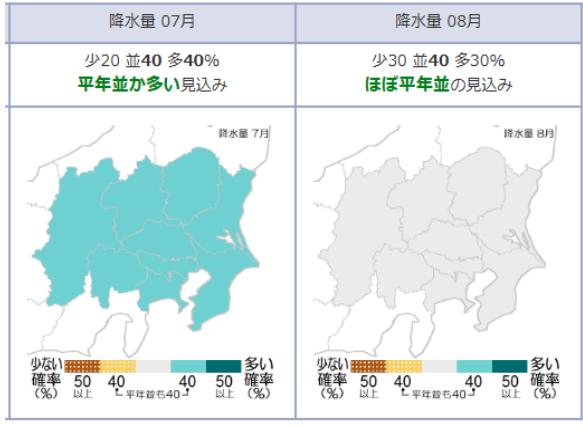
北陸地方



東海地方



関東甲信地方



1か月予報 (5月30日発表)

<https://www.jma.go.jp/bosai/season/#term=1month>

※ウェブページ画面上部のボタンより
各都道府県が属する地方を選択できます。



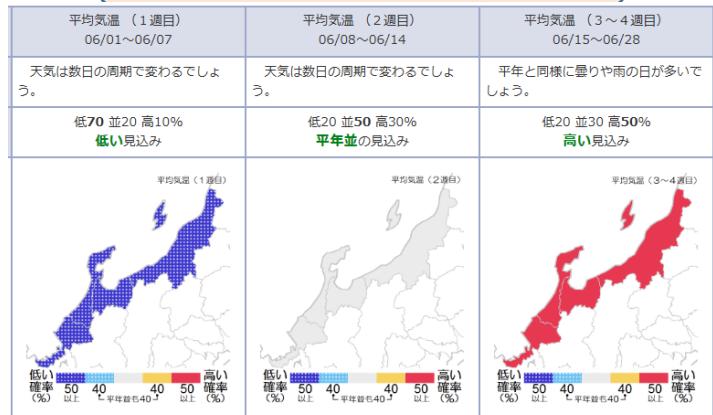
次回
6月6日(木) 14時30分 発表

1か月予報 (週別の平均気温と天候)

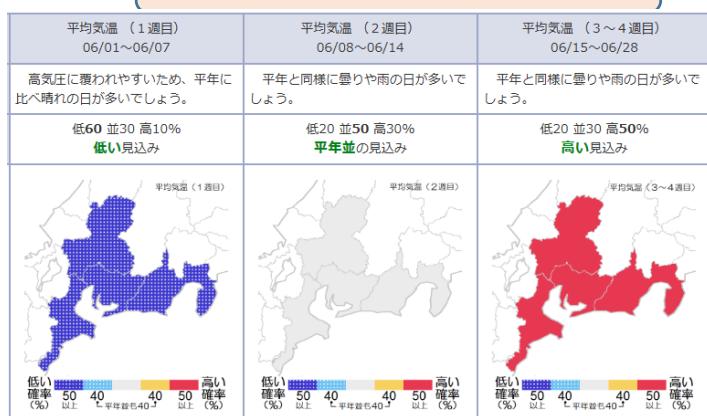
予報のポイント (抜粋) (全国 6/1 ~ 6/30)

全国的に向こう1か月の気温
はほぼ平年並の見込みですが、
期間のはじめは冷涼な空気の
影響を受けやすいでしょう。

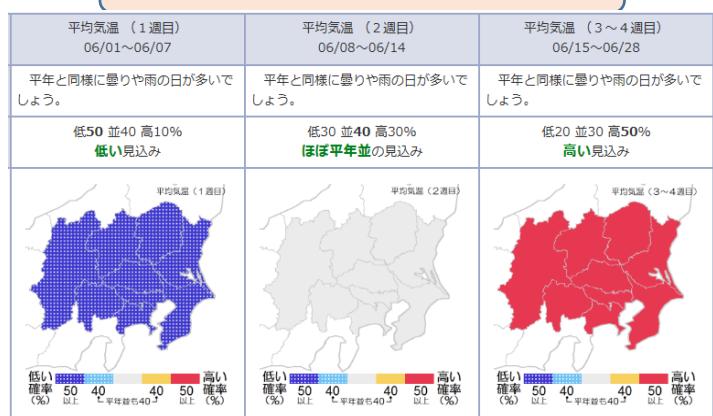
北陸地方



東海地方



関東甲信地方



つねに最新の情報をご利用ください！

2週間気温予報と季節予報各種

種類	予報する期間	発表日時	予測手法
2週間気温予報	8日先から12日先を中心とした各日の5日間平均	毎日 14時30分	数値予報
1か月予報	発表日翌々日から1か月	毎週木曜 14時30分	数値予報
3か月予報	発表月翌月から3か月	毎月 25日以前（原則） 火曜 14時	数値予報 統計的手法
暖候期予報	夏（6月～8月）	毎年 2月25日以前（原則） 火曜 14時	数値予報 統計的手法
寒候期予報	冬（12月～2月）	毎年 9月25日以前（原則） 火曜 14時	数値予報 統計的手法

11

ありがとうございました



ここからは参考資料

予想される海洋と大気の特徴

(6月～8月)

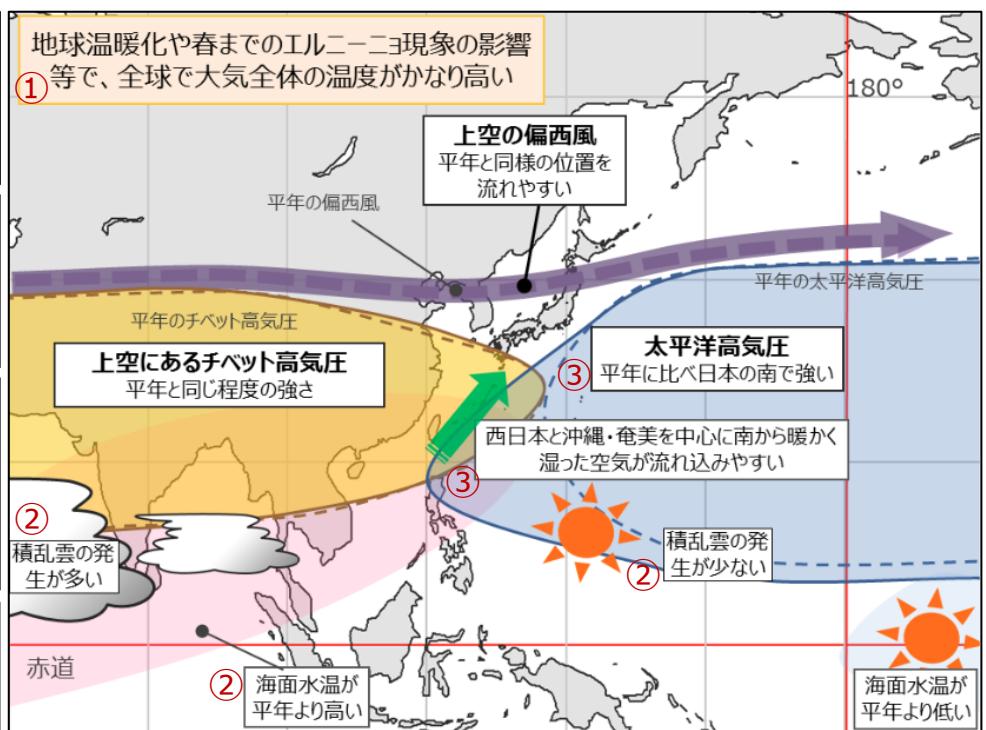
5月21日 気象庁発表 解説資料より

① 地球温暖化や春までのエルニーニョ現象の影響等により、
全球で大気全体の温度がかなり高いでしょう。

② インド洋熱帯域では西部を中心
に海面水温が高く、積乱雲の発生が多い一方、フィリピンの東方海上では少ないでしょう。

③ ②の影響により、日本の南で
太平洋高気圧が強く、日本附近には太平洋高気圧の縁を
回って暖かく湿った空気が流れ込みやすいでしょう。

これらのことから、日本付近は
暖かい空気に覆われやすいでしょう。また、西日本と沖縄・奄美を中心に、前線や湿った空気の影響を受けやすいでしょう。



数値予報結果をもとにまとめた予想される海洋と大気の特徴（6月～8月）

上記の①～③は、右図中の①～③の説明になります。

現在発生しているエルニーニョ現象は近いうちに終息し、平常の状態となる可能性が高いと予測しています。その後、夏から秋にかけては、平常の状態が続く可能性もありますが、ラニーニャ現象の発生の可能性が次第に高まる予測しています。

当面は、現在発生しているエルニーニョ現象の影響（※）が残る見込みですが、ラニーニャ現象が発生・発達した場合は、次第にその影響が世界や日本の天候に現れてくる可能性があります。

エルニーニョ／ラニーニャ現象の発生確率

(予測期間:2024年3月～2024年9月)



(※) 一般的なエルニーニョ現象やラニーニャ現象発生時の天候の特徴

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/elnino/learning/faq/whatiselnino3.html>